

第12回 日本免震構造協会賞 -2011-

第12回日本免震構造協会賞は、右の13件に決定した。

表彰制度の目的

免震構造の技術の進歩及び適正な普及発展に貢献した者並びに建築物を表彰することにより、免震技術の確実な発展と安全で良質な建築物等の整備に貢献していくことが本協会の表彰制度の目的である。

表彰の対象

功労賞は、多年にわたり免震構造等の適正な普及発展に功績が顕著な個人に、技術賞は、免震建築物等の設計・施工及びこれらに係る装置等に関する技術としての優れた成果を上げた個人、法人及び団体に、作品賞は、免震構造等の特質を反映した優れた建築物の実現に携わった個人、法人及び団体に、普及賞は、免震建築物・免震啓発活動・免震に係わる装置等により免震構造等の普及に貢献した個人、法人及び団体に贈る。

表 彰

2011年6月2日

(社)日本免震構造協会通常総会後

(社)日本免震構造協会表彰委員会委員

中埜良昭 (委員長) 江本正和 木林長仁
小泉雅生 小堀 徹 深澤義和 古橋 剛
増田 剛

審査経過

本年度第12回の応募は、功労賞2件、技術賞2件、作品賞9件、普及賞7件であった。功労賞は第7回以来の応募であり、また普及賞は昨年度の協会創立15周年記念事業の一環として設けられたもので、本年度から本表彰制度の審査対象となったものである。技術賞への応募は、制震技術の開発、大規模免震構造の設計・施工技術の各1件、また作品賞への応募は、新築の事務所ビル6件（ホテル等との複合施設を含む：うち免震・制震1件、免震4件、制震1件）、放送施設1件（免震）、美術館2件（免震）であった。

本年度は、まず第一回委員会で審査方法・日程等を審議・確認し、本年1月～3月に技術賞応募者へのヒアリングと作品賞応募作品の現地視察を行った。第二回委員会で受賞候補について慎重審議し、功労賞2件、技術賞（奨励賞）1件、作品賞3件、普及賞7件をそれぞれ選定した。

功労賞には1993年の協会設立当初より種々の制度や事業の発案、推進に多大な貢献が認められた2件が、また普及賞には協会の創立、維持・発展、技術成果の社会普及に多大な貢献が認められた7件がそれぞれ選定された。

技術賞は提案された免震・制震技術に対する新規性、信頼性、発展性、事業展開性などの面から審議さ

選 考 結 果

第12回日本免震構造協会賞受賞は下記の13件である。

I 功労賞

- 1) 中山 光男
- 2) 須賀川 勝

II 技術賞

- 1) <奨励賞>二重構造による連結制振構造「デュアル・フレームシステム」の超高層RC造建物への展開
株式会社大林組 西村勝尚 大住和正
福本義之 和田裕介

III 作品賞

- 1) 大林組技術研究所新本館
(スーパーアクティブ制震構造)
株式会社大林組 勝俣英雄 石川郁男 山中昌之
蔭山 満 遠藤文明
- 2) 三菱一号館
三菱地所株式会社 村田 修
株式会社三菱地所設計 岩井光男 山極裕史
小川一郎 野村和宣
- 3) 富士ゼロックスR&Dスクエア
富士ゼロックス株式会社 丸山厳浩
清水建設株式会社 山田祥裕 中川健太郎
諸星雅彦 藍原弘司

IV 普及賞

- 杉沢 充 小幡 学 三浦義勝 鈴木哲夫
鳥居次夫 小山 実 猿田正明

(敬称略)

れ、超高層集合住宅に内蔵したRC造立体駐車場と住戸棟との二重構造を利用した連結制震技術が技術賞（奨励賞）に選定された。

作品賞は免震・制震技術に対する構造的・技術的工夫に加えて、その建築空間、内外環境、景観、都市環境に与える影響も加味して3件選定された。1件は免震構造にアクティブ制震装置を付加し、大地震時にもほとんど揺れない建物を目指したもので、軽快な外観と開放的な内部空間の創出に成功している。残りの2件はいずれも免震構造で、うち1件はかつてのレンガ造建物を免震装置との新旧技術の融合により東京丸の内に再現したものであり、美術館としての機能やレトロな外観も現代都市に溶け込んでいる。もう1件は建物と周辺環境との空間的・建築的接点を実現した中間層免震構造で、一見では中間層免震とはわからない仕掛けや、ユニークな外観デザイン、大空間オフィスや外周回廊の工夫など、意欲的な作品である。

今年度は審査の過程で東北地方太平洋沖地震が発生した。幸いこれらの受賞作品には機能障害等は生じていないと聞いているが、免震・制震構造がよりロバスト性の高い構造として今後さらに洗練されることを期待する。

(中埜良昭)